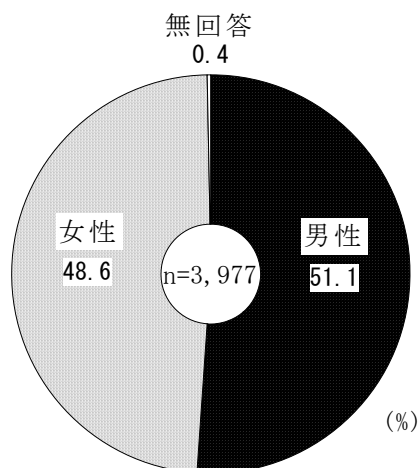


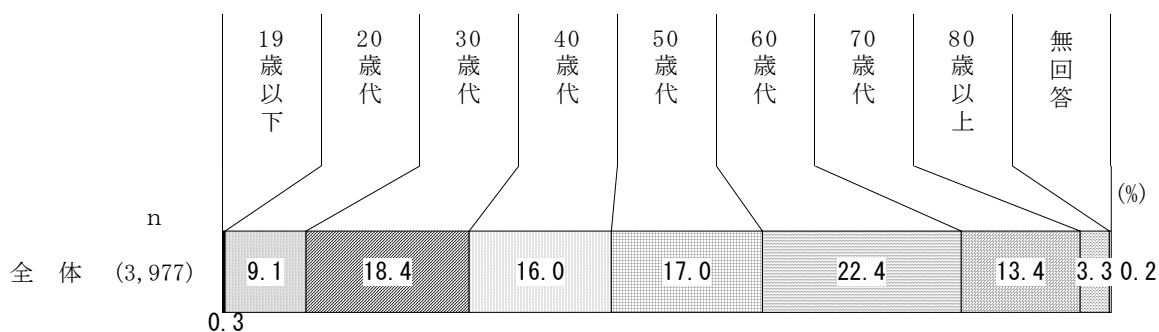
第5章 全体（郵送・窓口・ホームページ） 集計結果

回答者の属性

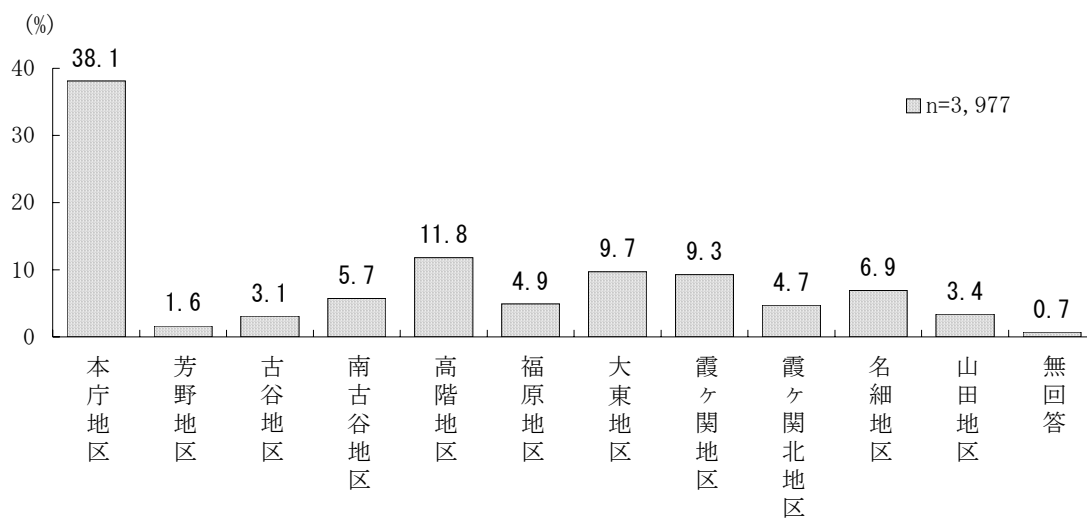
◆性別◆



◆年齢◆



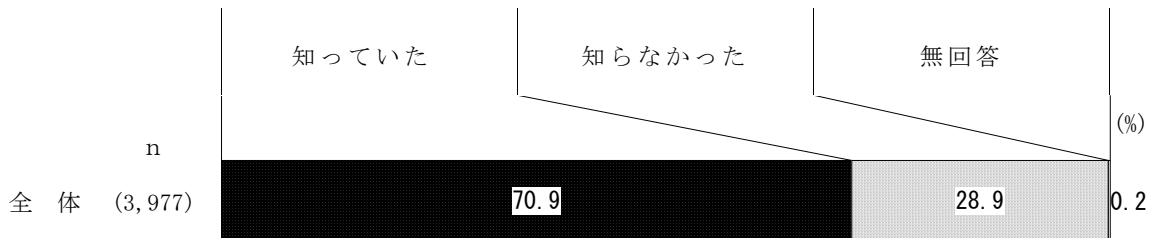
◆居住地区◆



1. 市庁舎を移転する考えに関する認知度

問4 このアンケートより前に、市庁舎を移転する考えがあることをご存知でしたか。 (○は1つ)

図表1-1

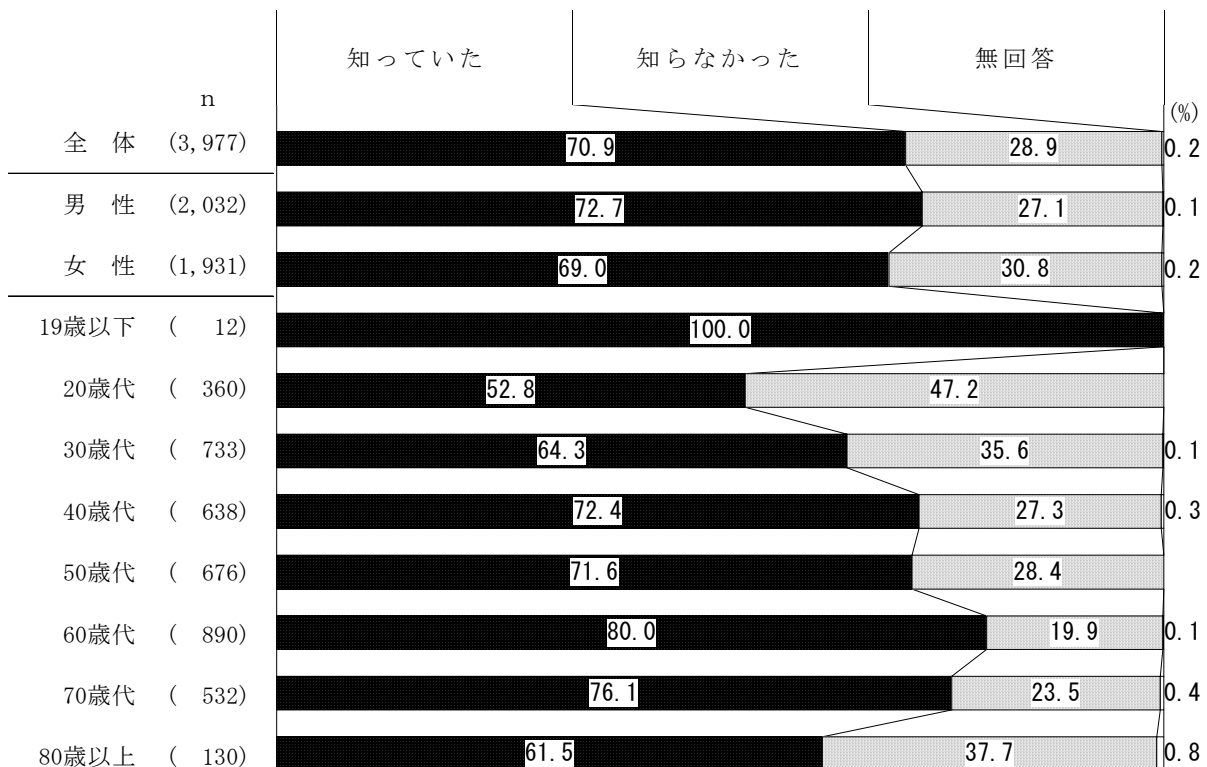


市庁舎を移転する考えに関する認知度は「知っていた」が70.9%、「知らなかった」は28.9%となっている（図表1-1）。

性別では、特に大きな差はみられない。

年齢別でみると、「知っていた」は30歳代以降で6割以上を占め、40歳代、50歳代、70歳代で7割台、60歳代では8割を占めている。「知らなかった」は20歳代で47.2%と他の年代と比較して多くなっている（図表1-2）。

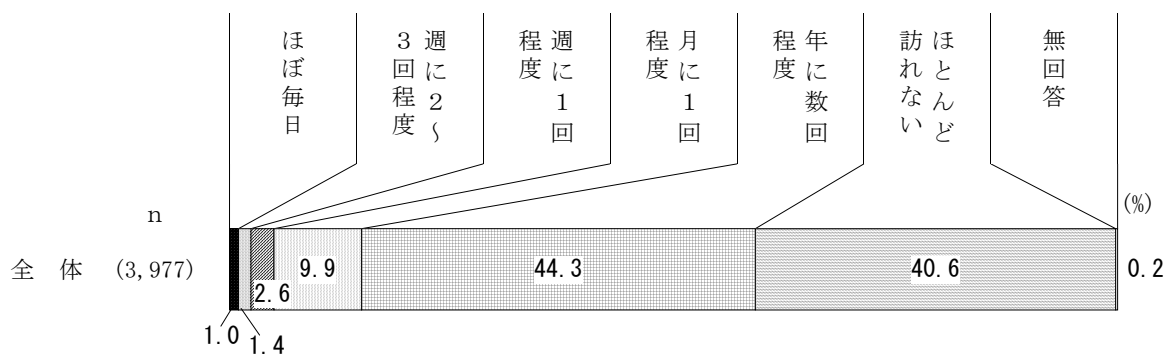
図表1-2 性別、年齢別 市庁舎を移転する考えに関する認知度



2. 最近1年間での市庁舎の利用頻度

問5 最近、概ね1年の間に、どのくらいの頻度で市庁舎に訪れましたか。
 (○は1つ)

図表2-1

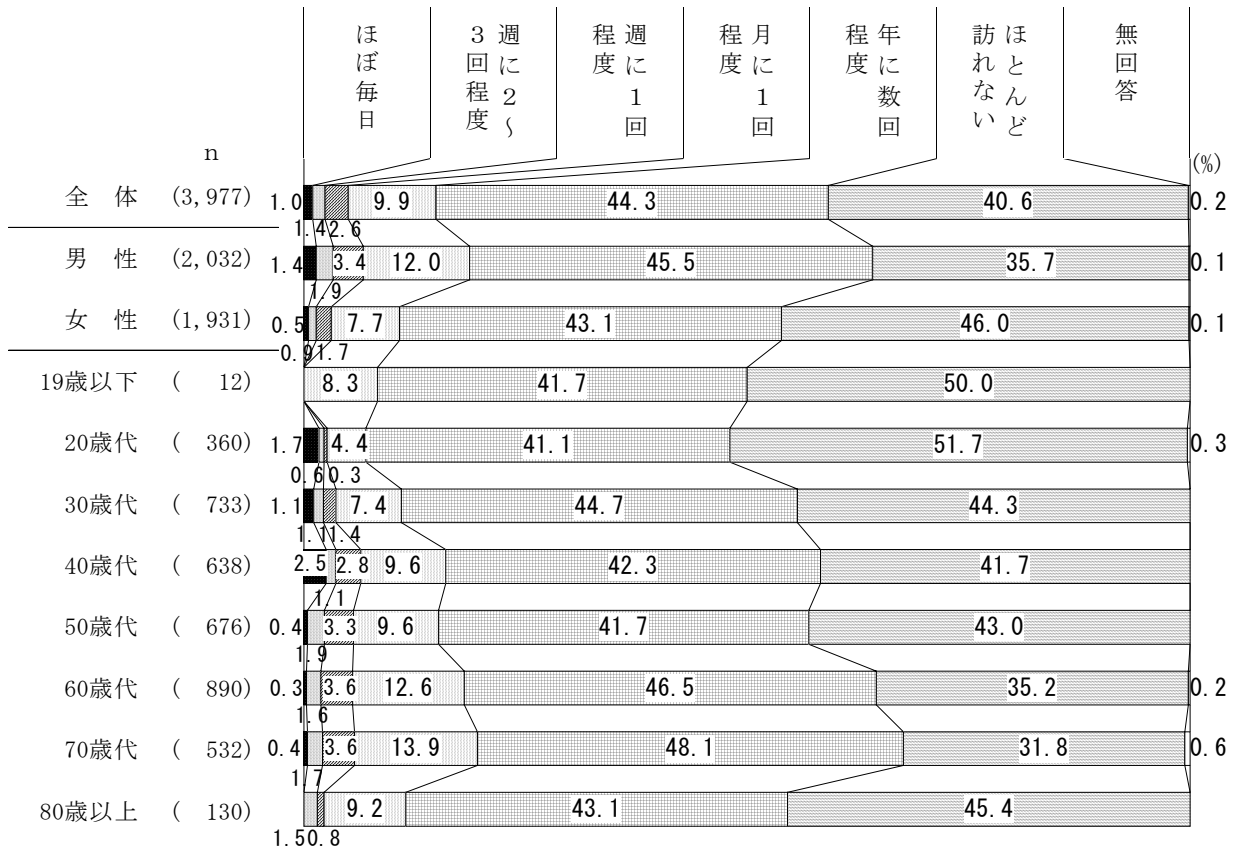


最近、1年の間に市庁舎に訪れた回数は、「年に数回程度」が44.3%で、「月に1回程度」は9.9%、「週に1回程度」から「ほぼ毎日」の人は5.0%となっている。一方、「ほとんど訪れない」は40.6%となっている（図表2-1）。

性別で見ると、「ほとんど訪れない」は女性（46.0%）が男性（35.7%）を10ポイント上回っている。

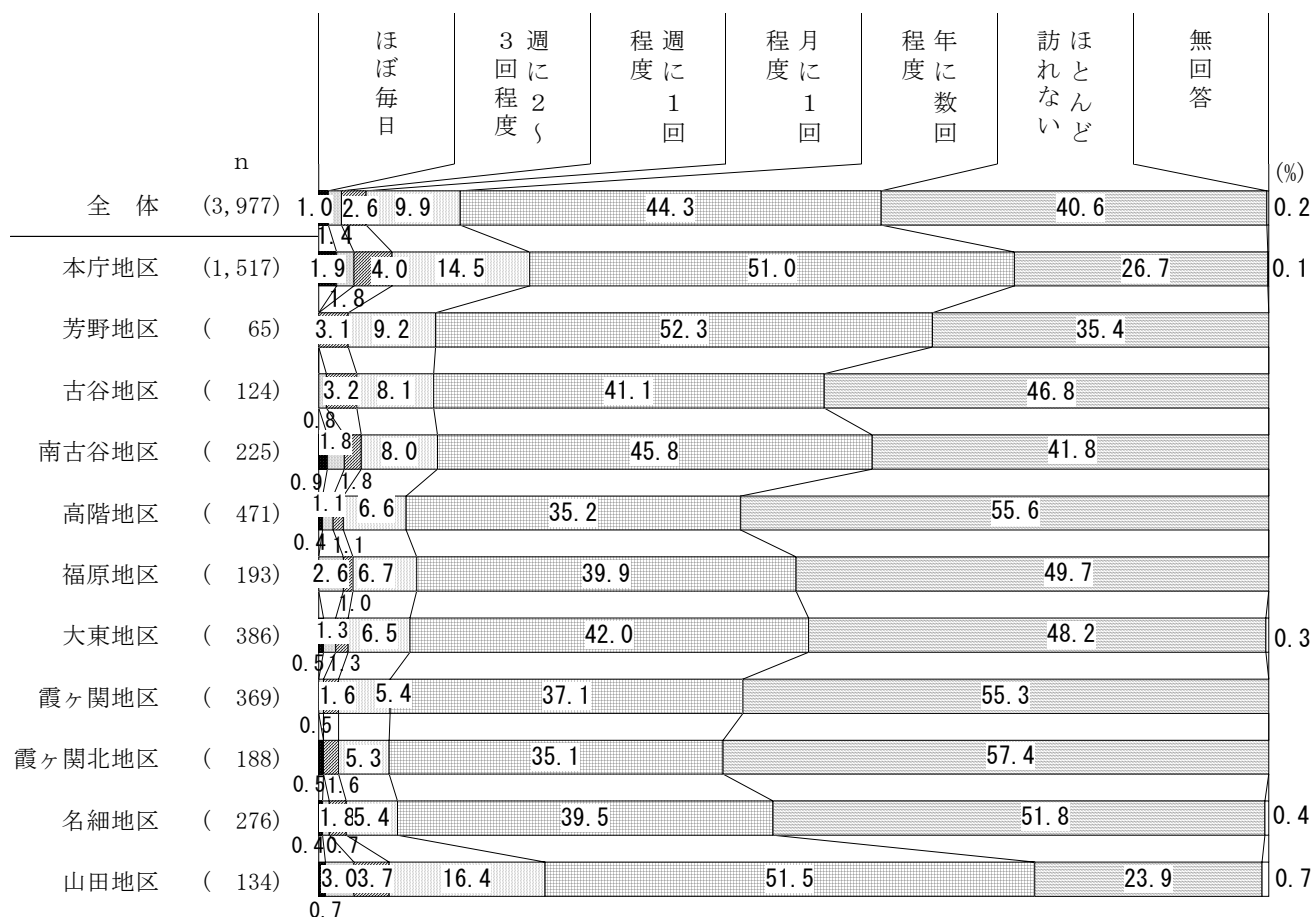
年齢別で見ると、いずれの年代でも「年に数回程度」は4割台となっている。60歳代と70歳代では「月に1回程度」が1割台となり、他の年代と比べて利用頻度が高い。「ほとんど訪れない」は60歳代と70歳代を除いて4割以上となっている（図表2-2）。

図表2-2 性別、年齢別 最近1年間での市庁舎の利用頻度



地区別で見ると、いずれの地区でも「年に数回程度」は3割以上となっており、芳野地区、山田地区、本庁地区では半数以上となっている。山田地区、本庁地区では「月に1回程度」が1割台となり、他の地区と比べて利用頻度が高い。「ほとんど訪れない」は本庁地区、芳野地区、山田地区を除いて4割から5割台となっている(図表2-3)。

図表2-3 地区別 最近1年間での市庁舎の利用頻度

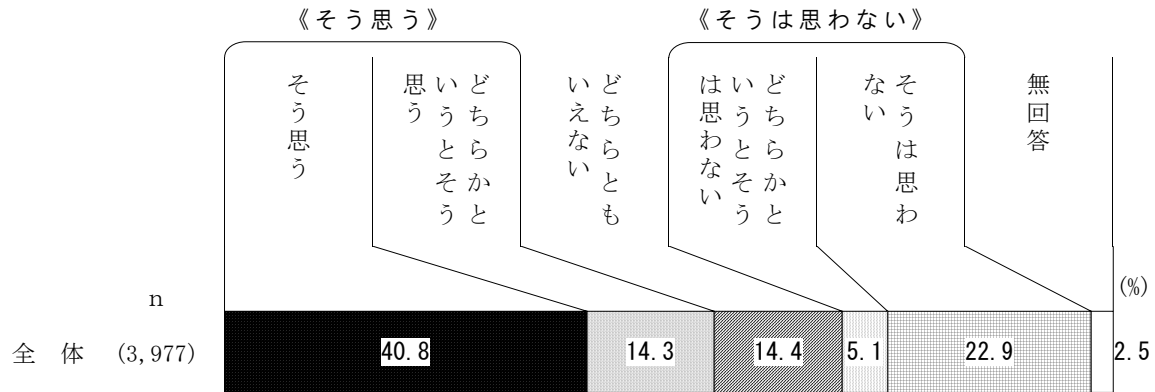


3. 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

問6 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思いますか。

(○は1つ)

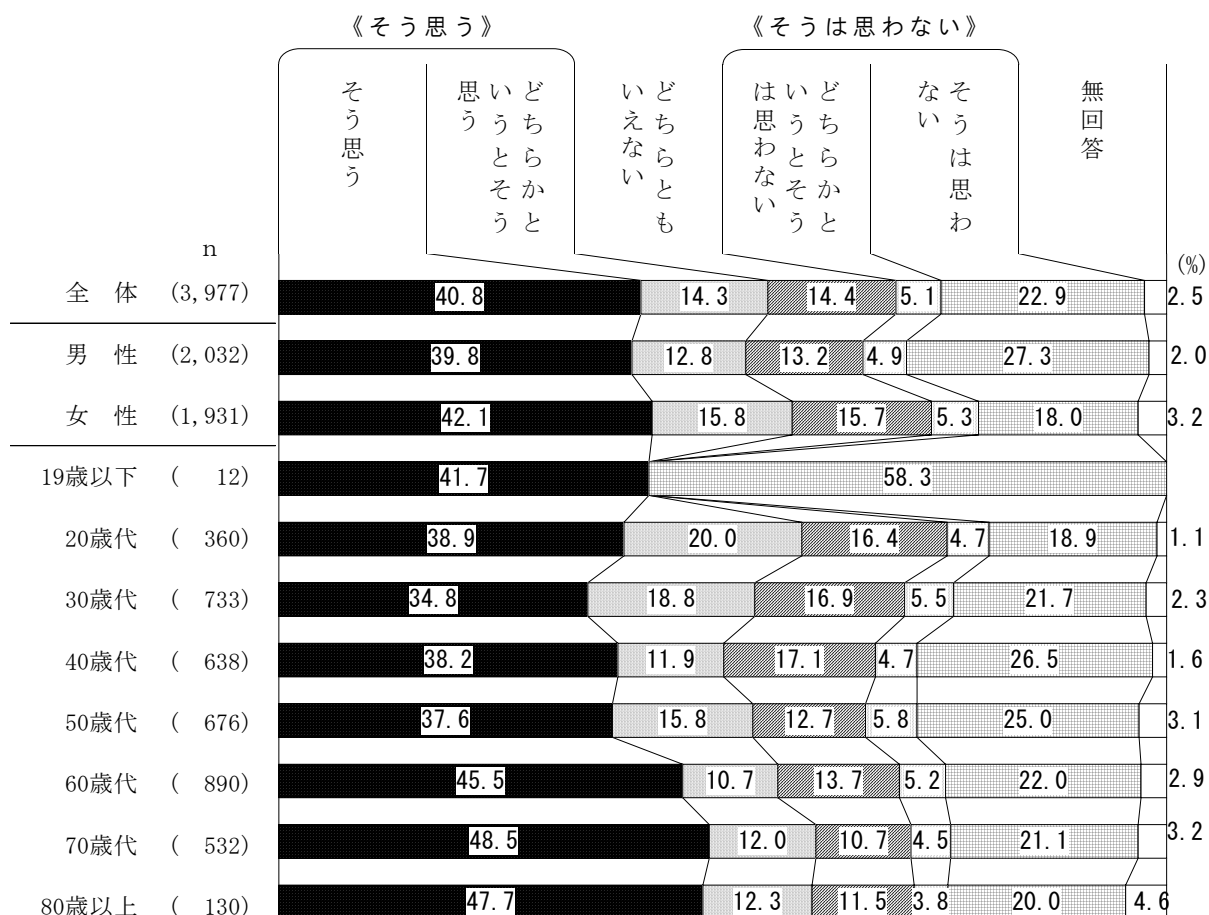
図表 3 - 1



新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うかということに「そう思う」は40.8%、「どちらかというと思う」は14.3%となっており、両者をあわせた《そう思う》は55.1%となっている。一方、「そうは思わない」(22.9%)と「どちらかというと思うは思わない」(5.1%)をあわせた《そうは思わない》は28.0%となっている(図表3-1)。

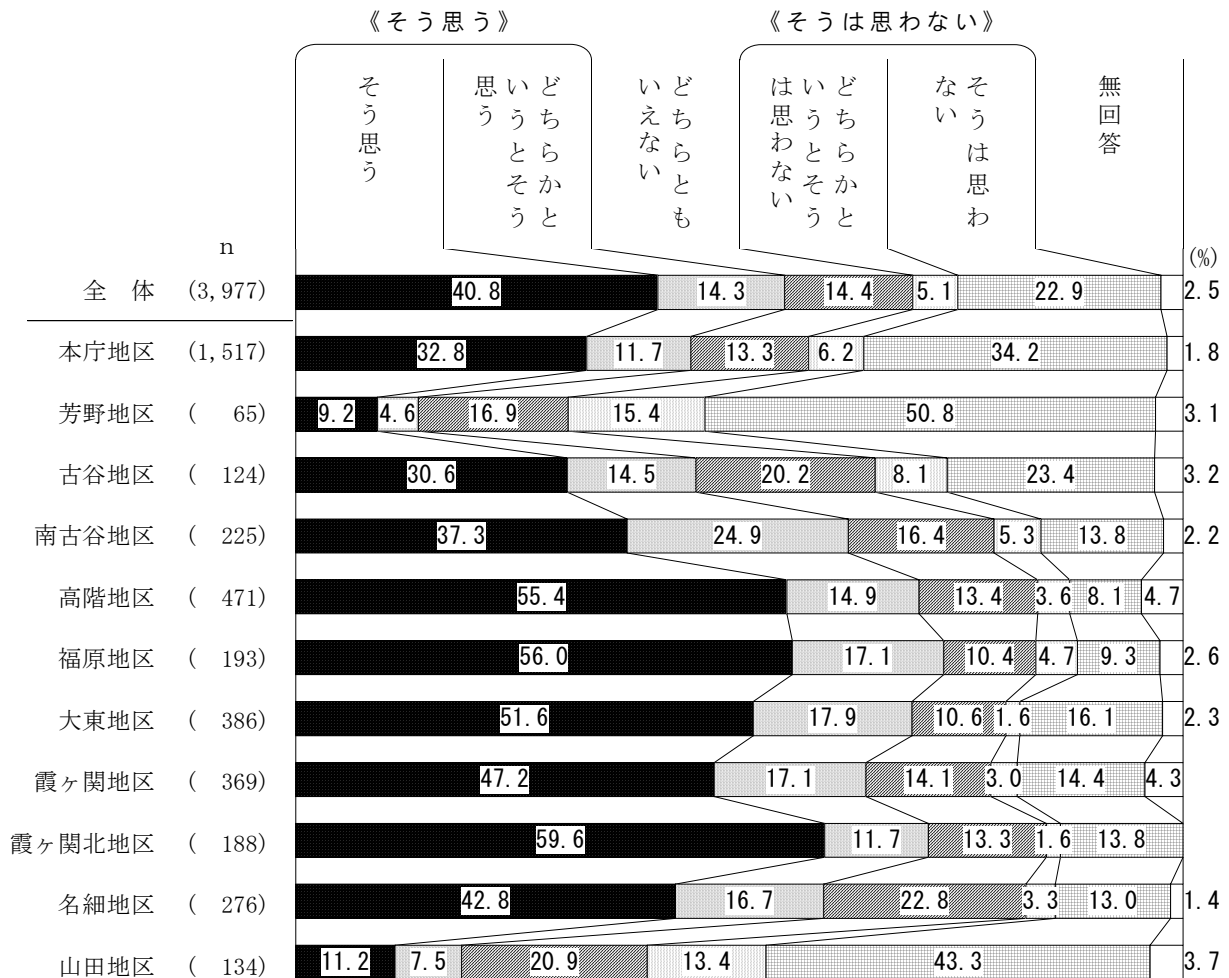
性別でみると、「《そう思う》」は女性（57.9%）が男性（52.6%）を5ポイント上回り、「《そうは思わない》」は男性（32.2%）が女性（23.3%）を9ポイント上回っている。
 年齢別でみると、「《そう思う》」はいずれの年代でも半数以上を占め、70歳代以降では6割台を占めている。「《そうは思わない》」は40歳代と50歳代で3割台と他の年代と比較してやや高い（図表3-2）。

図表3-2 年齢別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



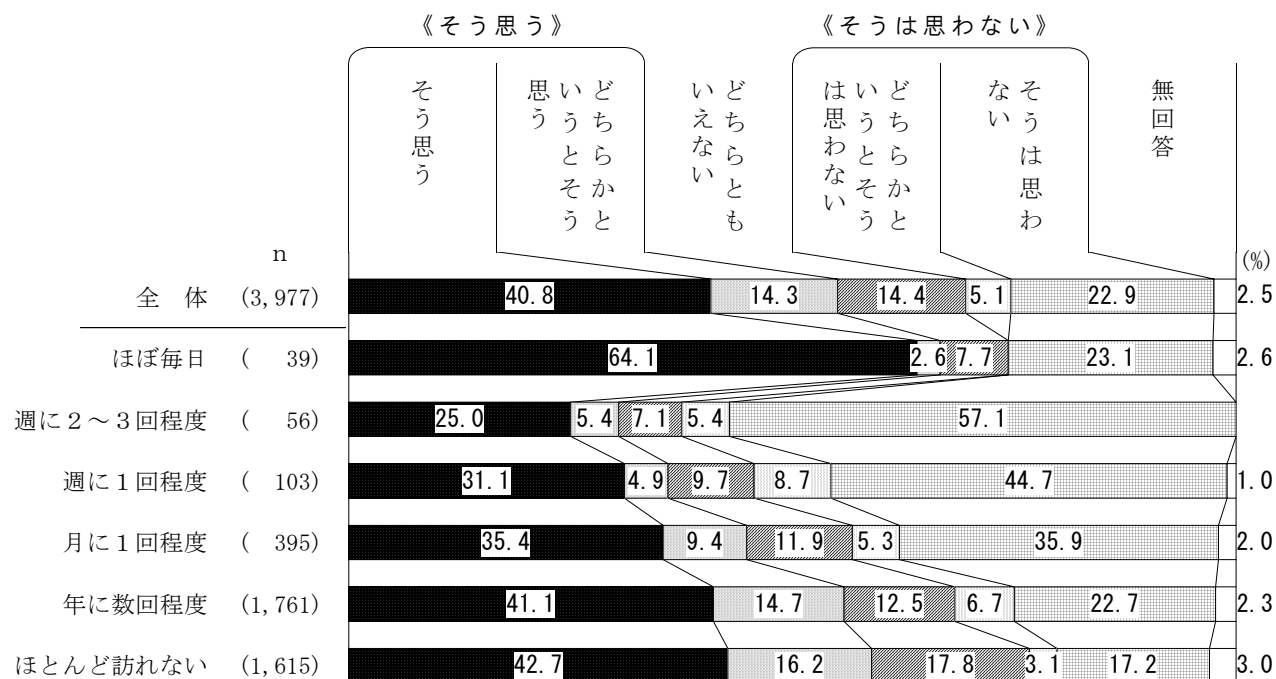
地区別でみると、《そう思う》は、福原地区、霞ヶ関北地区、高階地区で7割台を占め、大東地区、霞ヶ関地区、南古谷地区で6割台となっている。一方、《そうは思わない》は、芳野地区と山田地区で5割台から6割台を占め、《そう思う》を上回っている。また、《そうは思わない》は本庁地区で約4割、古谷地区でも3割台と比較的多くなっている（図表3-3）。

図表3-3 地区別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか



市庁舎の利用頻度別でみると、“ほぼ毎日”では「そう思う」が6割台と特に多くなっている。これ以外の層では、「《そう思う》」は利用頻度が低い層の方が多くなっており、“週2～3回程度”の30.4%から“ほとんど訪れない”の58.9%へと上昇している（図表3-4）。

図表3-4 利用頻度別 新しい市庁舎の場所は川越駅西口がよいと思うか

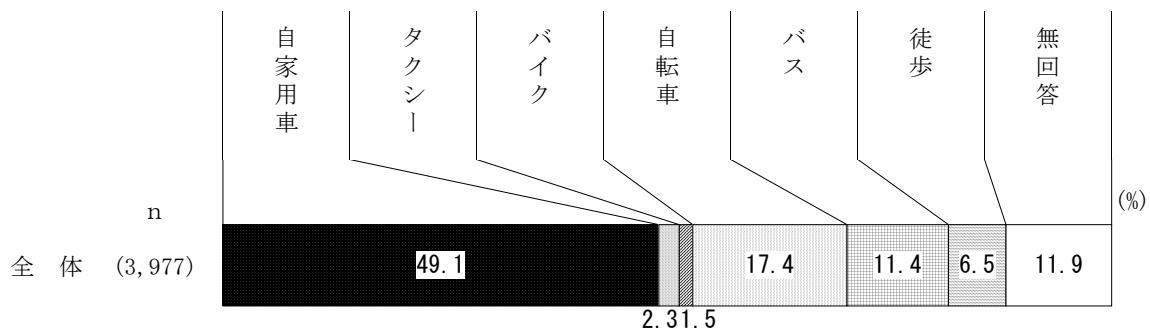


4. 現在の市庁舎までの主な交通手段

問7 交通手段（問5で「ほとんど訪れない」を選択された場合には、仮に訪れるとした場合の交通手段）をご回答ください。

（1）現在の市庁舎までの主な交通手段は、何ですか。（○は1つ）

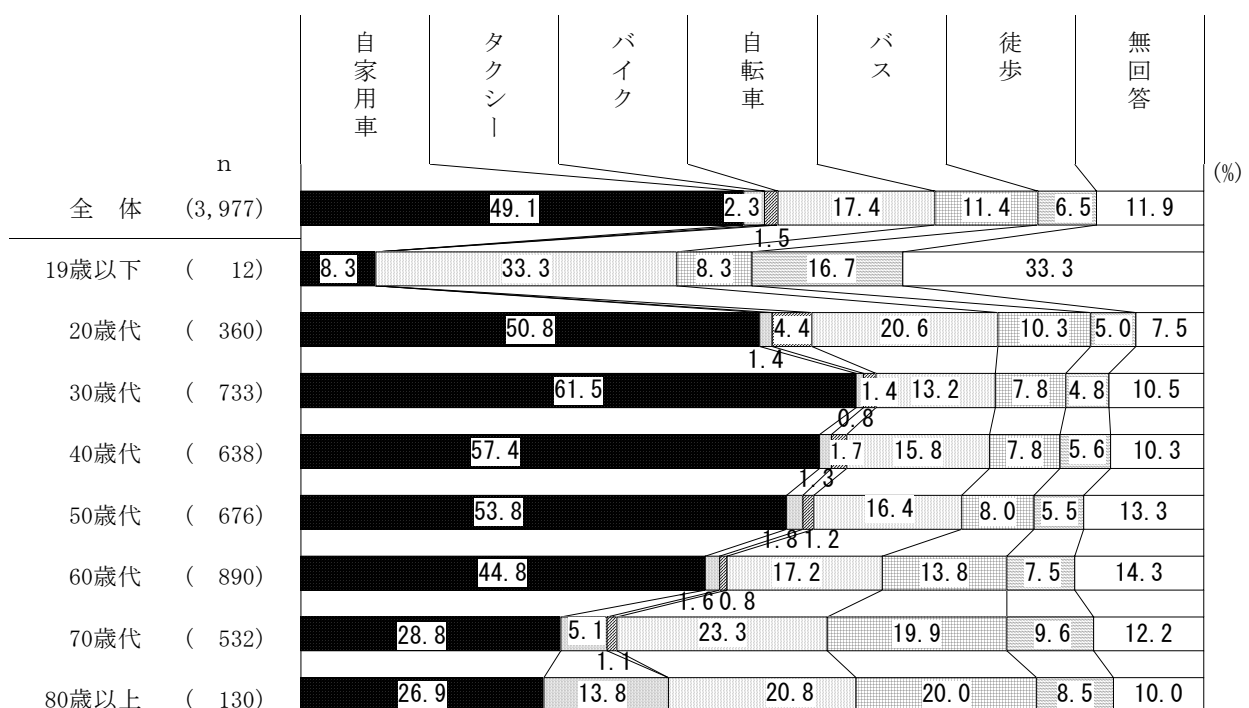
図表4-1



現在の市庁舎までの主な交通手段は「自家用車」が49.1%となっている。この他に「自転車」(17.4%)、「バス」(11.4%)が1割台となっている(図表4-1)。

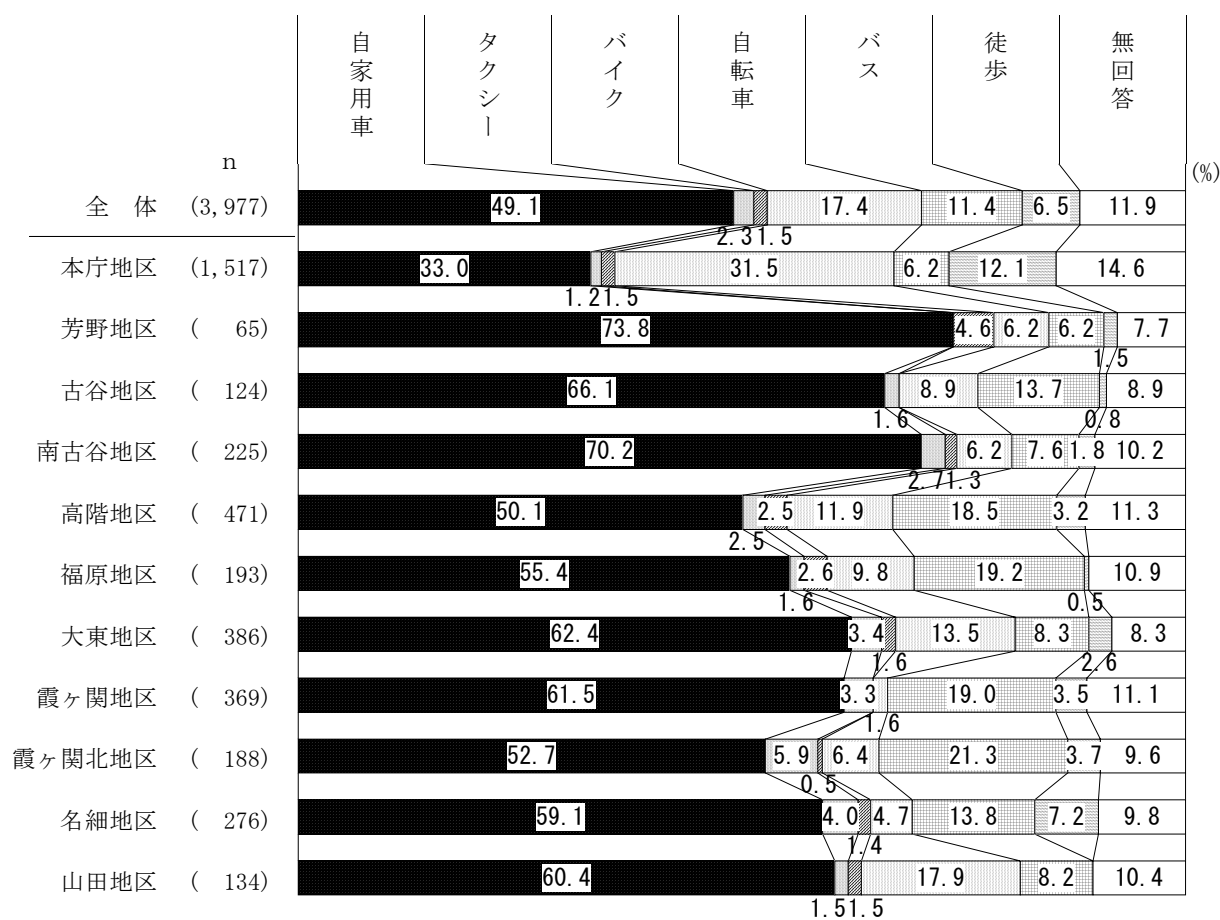
年齢別でみると、「自家用車」は20歳代から50歳代で半数以上を占め、特に30歳代では6割台を占めている。「自転車」は各年代で「自家用車」に次いで多くなっており、20歳代と70歳代以降の年齢で2割台と比較的多くなっている。「バス」は高齢者で多く、70歳代以降で約2割となっている(図表4-2)。

図表4-2 年齢別 現在の市庁舎までの主な交通手段



地区別で見ると、いずれの地区でも「自家用車」が最も多く、特に芳野地区と南古谷地区では7割台、古谷地区、大東地区、霞ヶ関地区、山田地区でも6割台を占めている。なお、本庁地区では「自家用車」は33.0%と他の地区と比べ低く、「自転車」が31.5%と比較的多い。また、「自転車」は山田地区、大東地区、高階地区でも1割台となっている。霞ヶ関北地区、福原地区、霞ヶ関地区では「バス」が2割前後となっている。（図表4-3）。

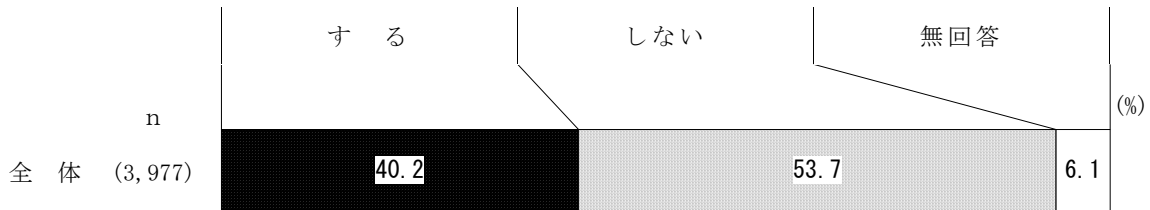
図表4-3 地区別 現在の市庁舎までの主な交通手段



5. 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用

(2) 市庁舎を川越駅西口に移転した場合、電車やバスをご利用されますか。
(○は1つ)

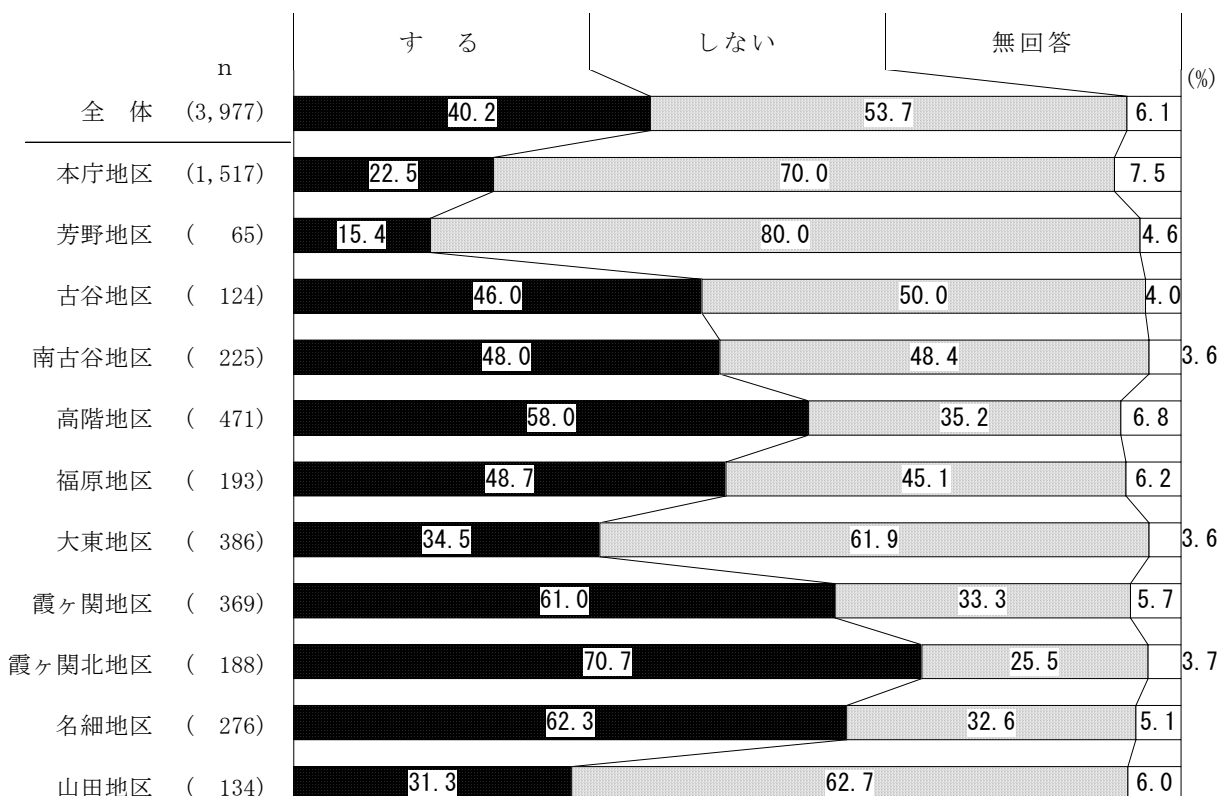
図表 5 - 1



市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用を「する」は40.2%、「しない」は53.7%となっており、利用しない人が利用する人を14ポイント上回っている(図表5-1)。

地区別で見ると、「しない」は芳野地区で8割、本庁地区で7割、山田地区と大東地区で6割台となり、「する」を大きく上回っている。「する」では、霞ヶ関北地区が7割台、名細地区と霞ヶ関地区で6割台、高階地区で5割台となり、「しない」を大きく上回っている。それ以外の地区では「する」と「しない」がほぼ2分している(図表5-2)。

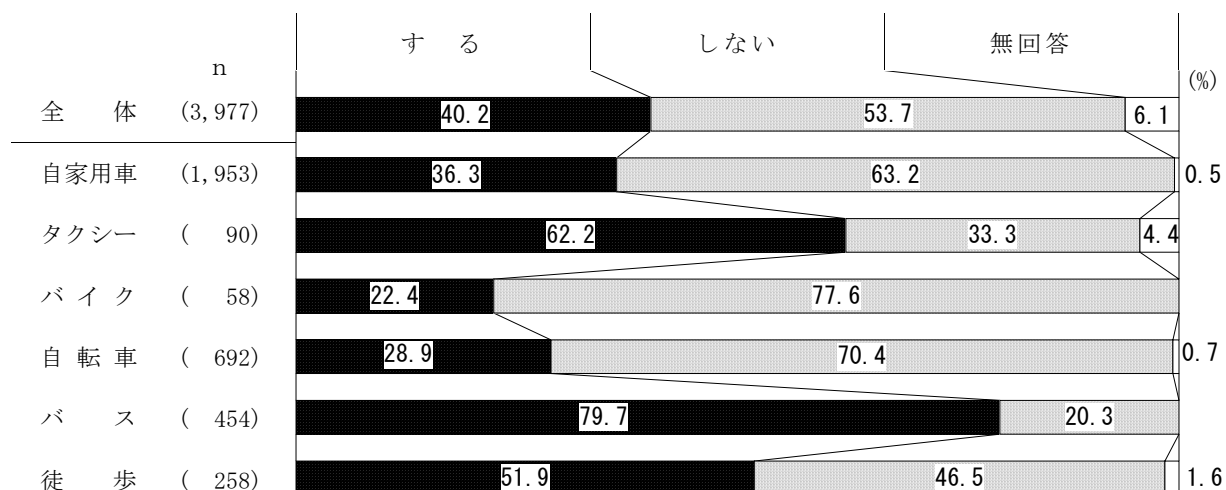
図表 5 - 2 地区別 市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



現在の市庁舎までの主な交通手段別でみると、現在、自家用車を利用している人は「する」が36.3%となり、3割台半ばの人が公共交通機関の利用意向を示している。

この他の「する」に着目すると、バスが約8割、タクシーが6割台、徒歩でも半数以上と多くなっている（図表5-3）。

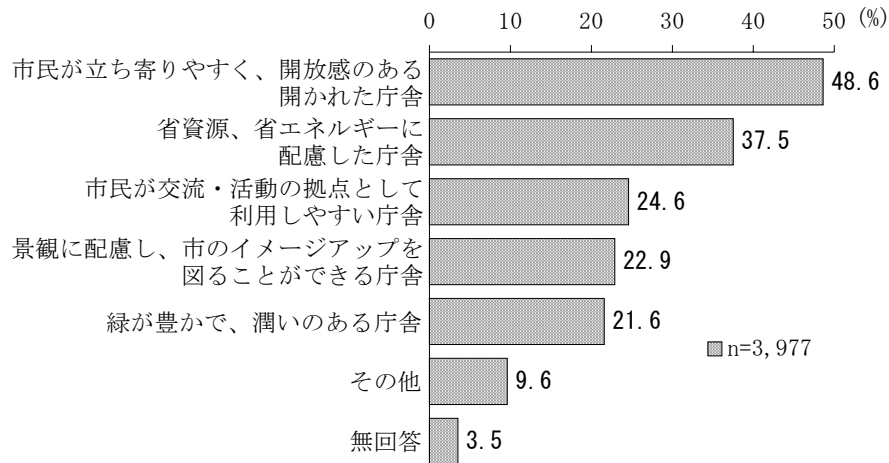
図表5-3 現在の市庁舎までの主な交通手段別
市庁舎を川越駅西口に移転した場合の電車やバスの利用



6. 新しい市庁舎の望ましいイメージ

問8 新しい市庁舎は、どのようなイメージが望ましいと思いますか。
(○は2つ以内)

図表 6 - 1

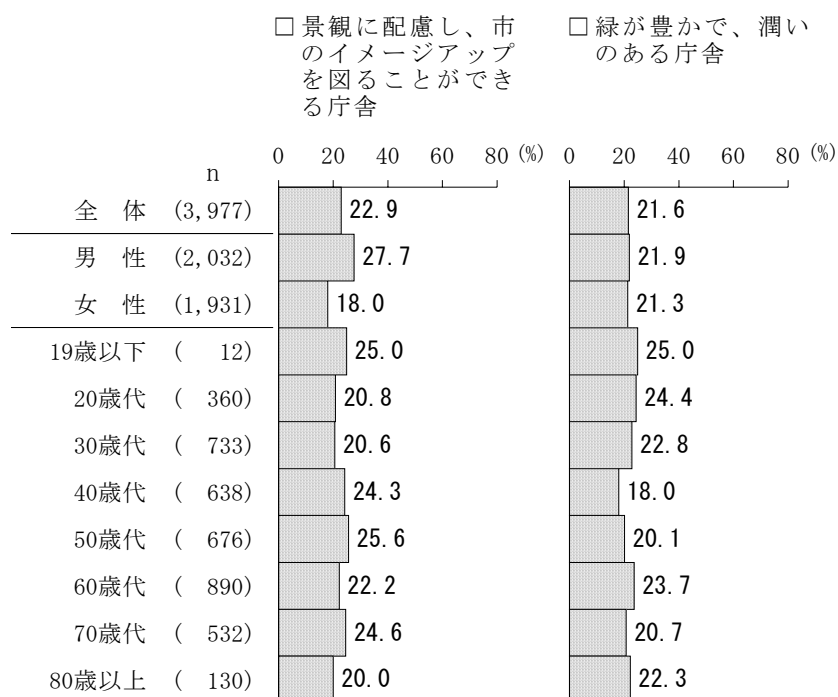
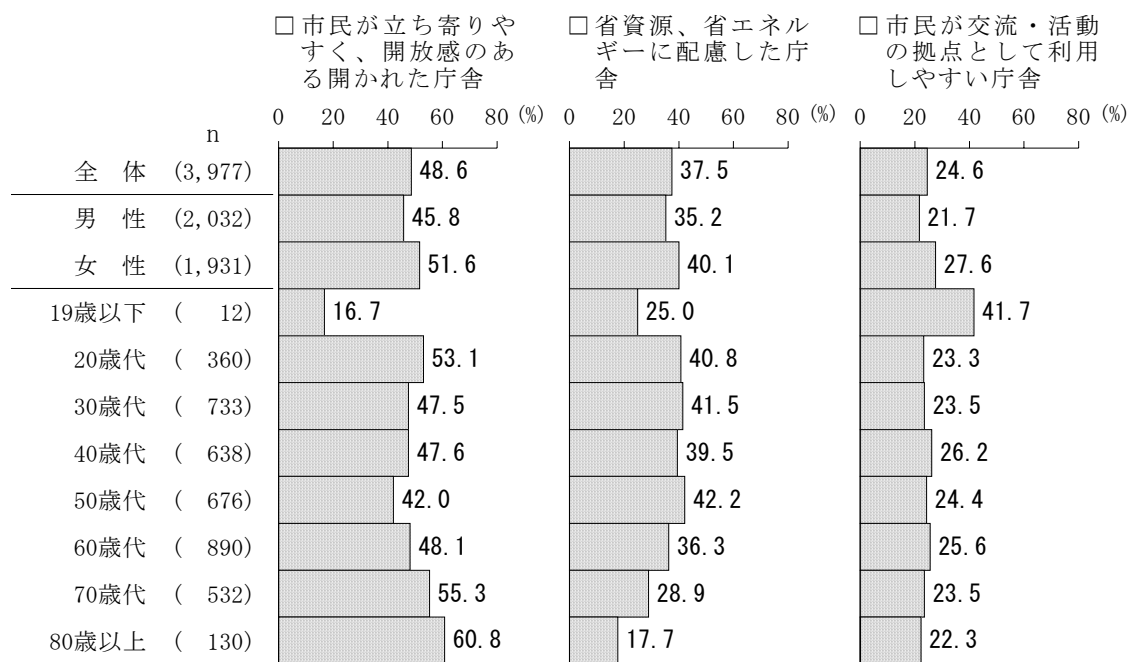


新しい市庁舎の望ましいイメージは、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」が48.6%で最も多く、「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」(37.5%)が3割台、「市民が交流・活動の拠点として利用しやすい庁舎」(24.6%)、「景観に配慮し、市のイメージアップを図ることができる庁舎」(22.9%)、「緑が豊かで、潤いのある庁舎」(21.6%)が2割台で続いている(図表6-1)。

性別で見ると、「景観に配慮し、市のイメージアップを図ることができる庁舎」は男性(27.7%)が女性(18.0%)を10ポイント上回っている。

年齢別では、「市民が立ち寄りやすく、開放感のある開かれた庁舎」はほとんどの年代で多く、世代を超えた希望となっている。「省資源、省エネルギーに配慮した庁舎」は20歳代から50歳代までで4割前後と多くなっている(図表6-2)。

図表6-2 性別、年齢別 新しい市庁舎の望ましいイメージ

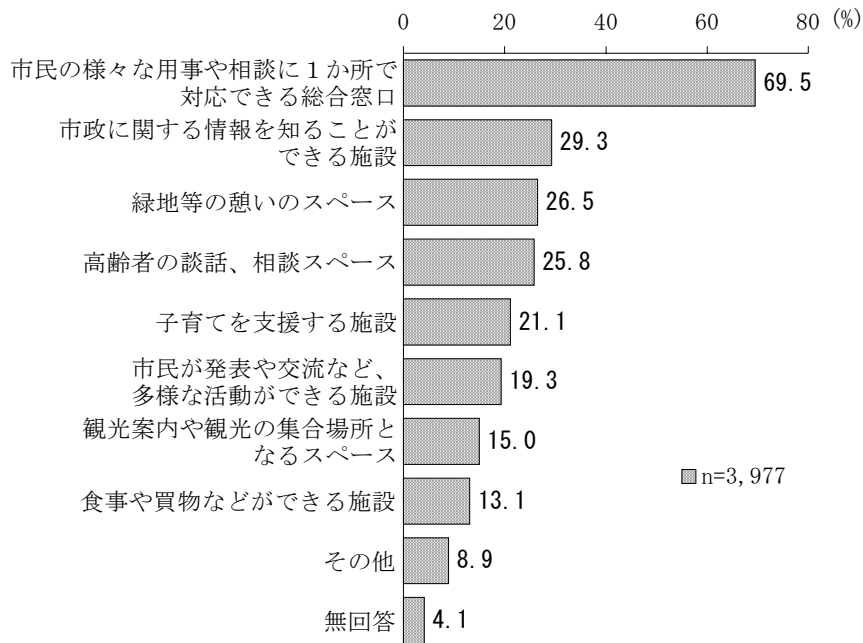


7. 新しい市庁舎に望む機能や施設

問9 新しい市庁舎にあるとよい機能や施設は何だと思えますか。

(○は3つ以内)

図表 7-1



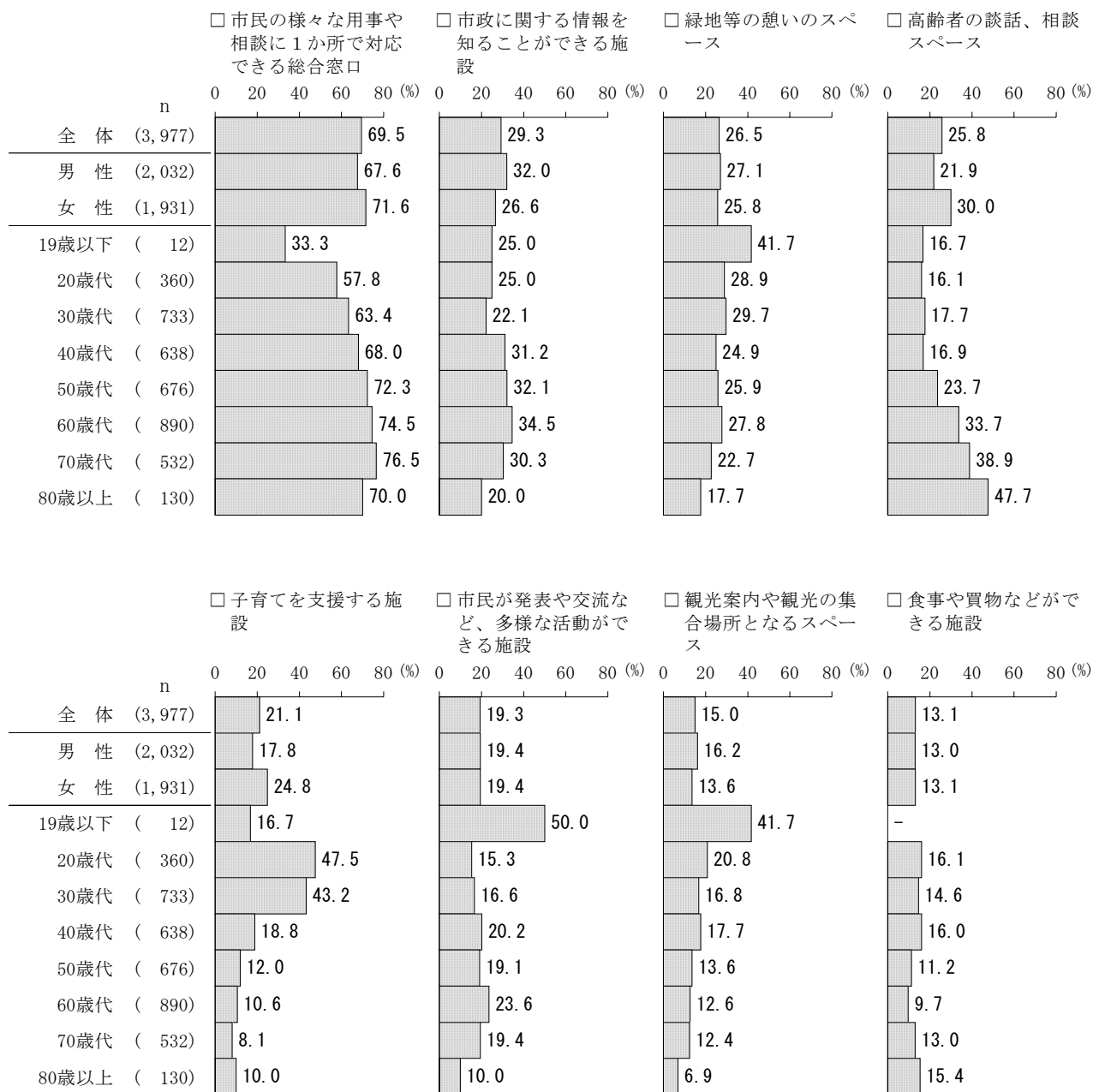
新しい市庁舎に望む機能や施設は、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」が69.5%と特に多く、以下、「市政に関する情報を知ることができる施設」(29.3%)、「緑地等の憩いのスペース」(26.5%)、「高齢者の談話、相談スペース」(25.8%)、「子育てを支援する施設」(21.1%)が2割台で続いている(図表7-1)。

性別で見ると、「高齢者の談話、相談スペース」は女性(30.0%)が男性(21.9%)を8ポイント、「子育てを支援する施設」は女性(24.8%)が男性(17.8%)を7ポイント上回っている。一方、「市政に関する情報を知ることができる施設」は男性(32.0%)が女性(26.6%)を5ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「市民の様々な用事や相談に1か所で対応できる総合窓口」はいずれの年代からも最も多くあげられており、50歳代以降では7割台を占めている。「市政に関する情報を知ることができる施設」は40歳代から70歳代で3割台となっている。

「高齢者の談話、相談スペース」は60歳代以降で多くなっており、80歳以上では4割台となっている。「子育てを支援する施設」は20歳代と30歳代で4割台と多く、「観光案内や観光の集合場所となるスペース」も20歳代で2割と比較的多くなっている(図表7-2)。

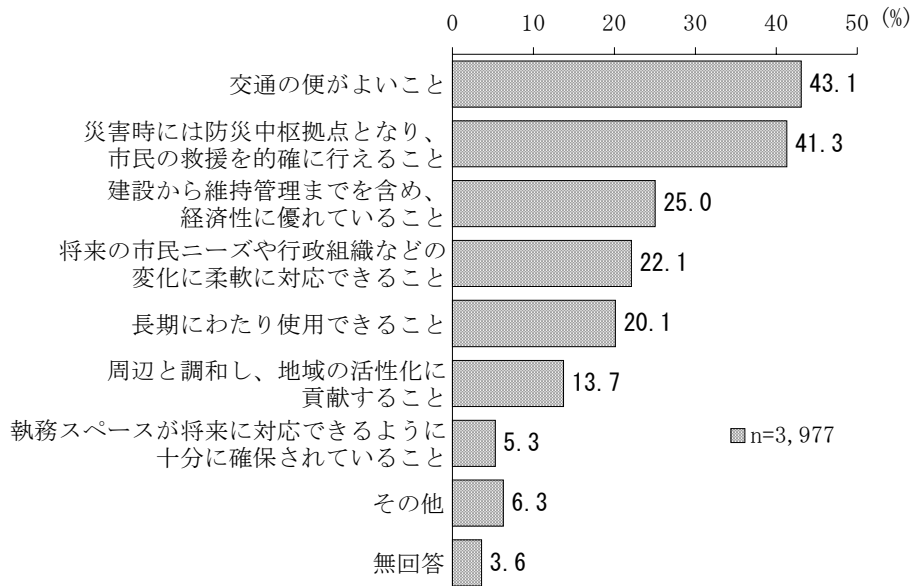
図表 7-2 性別、年齢別 新しい市庁舎に望む機能や施設



8. 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと

問10 新しい市庁舎を建設する場合、重視しなければならないことは何だと思いますか。（○は2つ以内）

図表 8 - 1

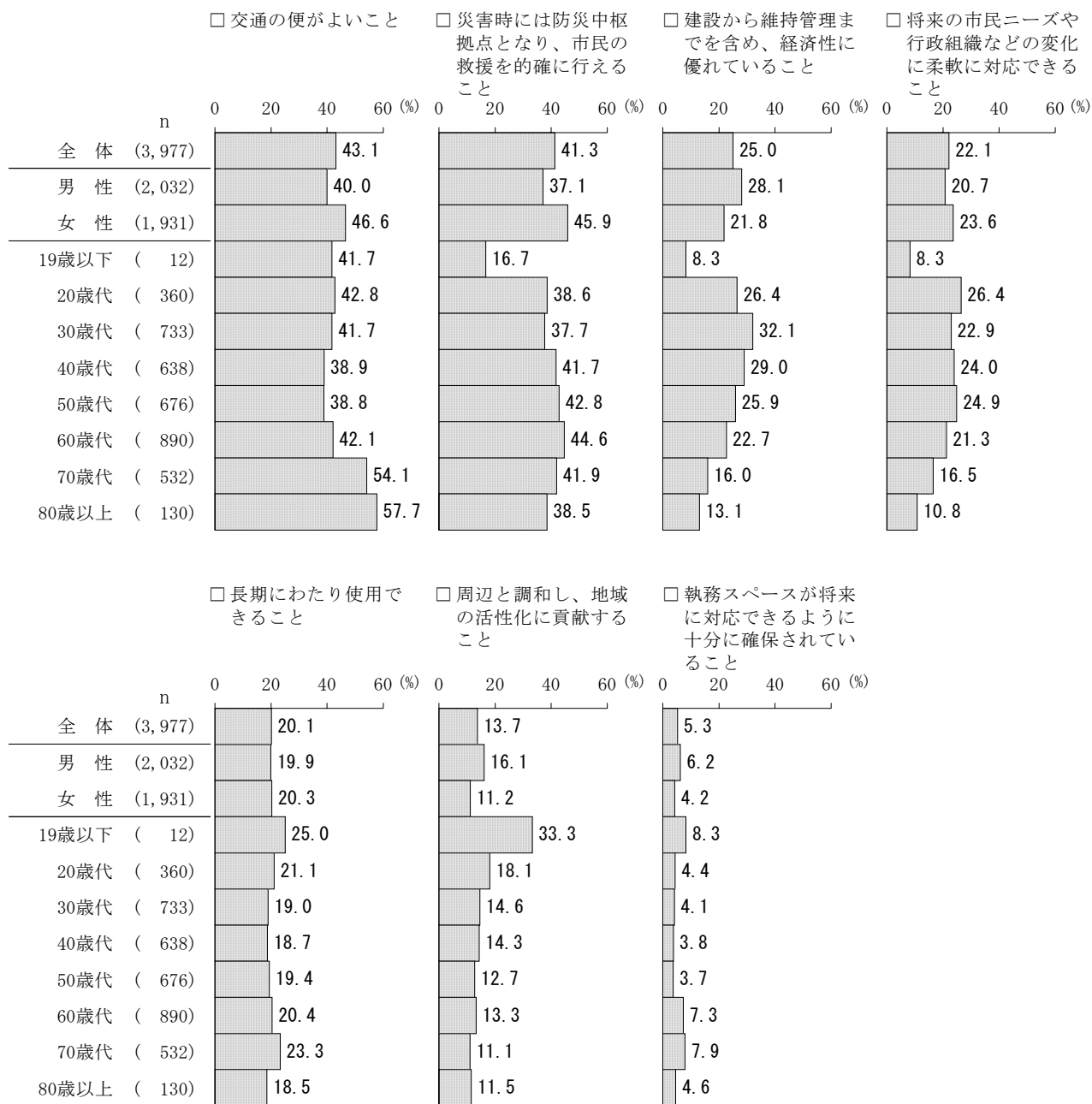


新しい市庁舎の建設で重視すべきことは、「交通の便がよいこと」（43.1％）と「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」（41.3％）の2項目が4割台で多くなっている。以下、「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」（25.0％）、「将来の市民ニーズや行政組織などの変化に柔軟に対応できること」（22.1％）、「長期にわたり使用できること」（20.1％）が2割台で続いている（図表8-1）。

性別で見ると、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」は女性（45.9％）が男性（37.1％）を9ポイント、「交通の便がよいこと」は女性（46.6％）が男性（40.0％）を7ポイント上回る。一方、「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」は男性（28.1％）が女性（21.8％）を6ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「交通の便がよいこと」、「災害時には防災中枢拠点となり、市民の救援を的確に行えること」は幅広い年代で支持を得ており、特に「交通の便がよいこと」は70歳代以降で5割台と多くなっている。また、「建設から維持管理までを含め、経済性に優れていること」は30歳代と40歳代で3割前後と比較的が多くなっている（図表8-2）。

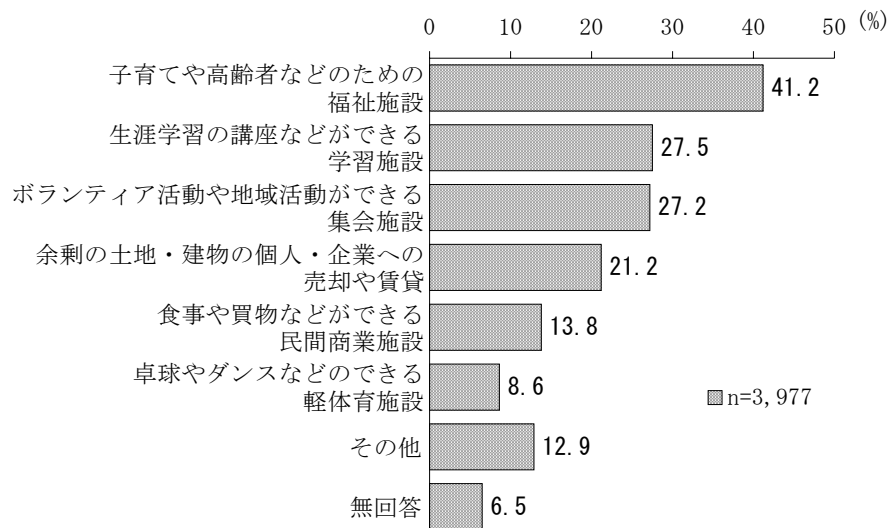
図表 8 - 2 性別、年齢別 新しい市庁舎の建設で重視すべきこと



9. 移転後の現在の市庁舎の活用

問 11 市庁舎を移転した場合には、現在の市庁舎に市役所の窓口機能を残し、観光拠点等として有効活用を図るよう検討していく予定ですが、それ以外にどのように活用したらよいと思いますか。(○は2つ以内)

図表 9 - 1



移転後の現在の市庁舎の活用は、「子育てや高齢者などのための福祉施設」が41.2%で最も多く、「生涯学習の講座などができる学習施設」(27.5%)、「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」(27.2%)、「余剰の土地・建物の個人・企業への売却や賃貸」(21.2%)が2割台で続いている(図表9-1)。

性別で見ると、「子育てや高齢者などのための福祉施設」は、女性(47.9%)が男性(35.2%)を13ポイント、「余剰の土地・建物の個人・企業への売却や賃貸」は男性(24.6%)が女性(17.8%)を7ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「子育てや高齢者などのための福祉施設」はいずれの年代でも、最も多くあげられている。また、「余剰の土地・建物の個人・企業への売却や賃貸」は、30歳代から60歳代で2割台、「ボランティア活動や地域活動ができる集会施設」は60歳代で3割台、「食事や買物などができる民間商業施設」は80歳以上で2割台と比較的多くなっている(図表9-2)。

図表9-2 性別、年齢別 移転後の現在の市庁舎の活用

